次世代を担う子どもが
安全に楽しく川の恵みを享受できる社会の推進

特定非営利活動法人　川に学ぶ体験活動協議会（River Activities Council　略称RAC）

1.《良い子は川で遊ばない》社会を変えたい！ RACのはじまり

「《良い子は川で遊ばない》が常識になっている社会を変えたい」これが私たちの活動の始まりでした。

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会（以下RAC）の誕生は、平成9年の河川法改正、同10年6月の河川審議会小委員会答申「川に学ぶ社会をめざして」まで遡ります。

この答申では、『現代は、「川に学ぶ社会」を創造することが求められている、そして、それを創造するためには、先ず、川の魅力とその本来の姿を広く多くの人に伝えることが大切だ。』という提言がなされました。

RACは、この「川に学ぶ社会」すなわち「次世代を担う子どもが、安全に楽しく川の恵みを享受できる社会」を目指して、平成12年9月に関係機関のご支援を受けて、市民団体、公益法人等を主体に12団体で設立しました。その後、平成17年にNPO化し、現在では、全国各地の100を超える市民団体や自治体、学校、企業などを会員とする組織となっています。そして、これまでに育成された川の指導者約6,500名が、全国各地で「川の恵みを享受できる社会の推進」のために日々活動を行っています。

2. 私たちの目指すもの ～川での活動を体験できる機会を作り出す～

“身近な川”は知識としてではなく、身体で感じ、学ぶことができる絶好の場です。日頃は縁遠く感じている川に実際に入る体験活動をすることによってこそ、本当の環境教育、すなわち川や住んでいる地域を好きになり、ひいては地球規模の環境に配慮した生活のできる人を育成することにつながるとRACは考えています。

RACの活動の目的は、川での体験活動を通じて、水環境の保全や人間性の回復をめざした活動を時代時代に合わせて総合的に展開し、次世代を担う子どもたちが力強く育つお手伝いをすることです。川での体験活動には、水辺の自然や生きものとのふれあい、自然の安らぎ、自然のいとなみに対する気づきといった面白さがある反面、水難事故など自然の厳しさや危険と常に直面していることも事実です。

このため、川は絶好の学びの場だとわかってはいても、危険を避けるために、子どもを川には近づけないということが、近年の社会の風潮でした。

そこで、RACは、子どもや大人が安全に楽しく川での活動を体験できる機会を作り出すために、川での危険や身の守り方をはじめ様々な川の魅力を伝えることのできる人材を育成することから活動を始めました。川の指導者養成ハンドブックを整備し、「川の指導者講習」を全国各地で展開しました。また、体験学習を通して危機管理の基礎知識「自分を守る」ことを学ぶ「子どもの水辺安全講座」や、「学校リーダー講座」をはじめ学校との連携事業など、全国の子どもや大人が身近な川で安全に遊び・学べる機会を作

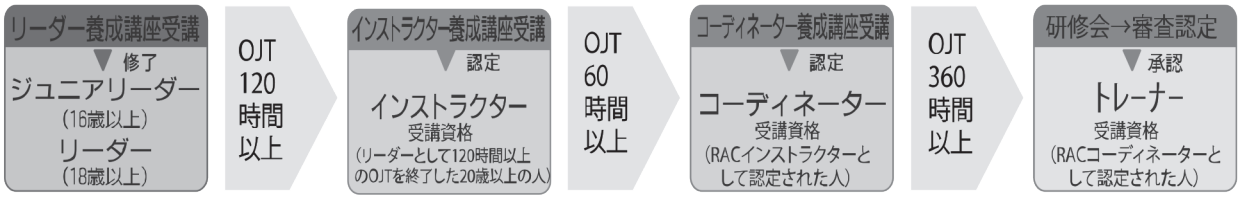
り出す活動を、全国の構成団体の活動を通じて展開しています。

3. RACは日本で唯一国の認定を受けた川の指導者を育成する団体です。

全国の子どもたちが、身近な川で安全に遊び学べる環境と体験の機会を作り出していくためには、川をもっと魅力あるものにすることはもちろんですが、川に内在する危険や身の守り方、様々な川の文化を継承できる人材を育成することが必要でした。そこでRACでは、指導者育成・認定システムを創設し、全国各地でリーダー養成を中心に関連講座を展開してきました。

活動を始めたころには、「川の指導者」という概念も明確ではなく、指導者を養成するカリキュラムも認定制度も何もない状況からのスタートでした。指導者の養成講座を開設するにあたり、川の指導者とは、どのような指導者であるべきか、どのようなスキルを持ち合わせていればよいのかなど、全国で行われている様々な活動を通じて検討しました。活動するときの安全対策に始まり、川という自然や環境への理解、川と人、社会との関わりである川文化、そして、指導方法や指導技術など川の指導者が身に着けるべきと思われる知識や技能は、大変多岐にわたっていました。

RACでは、これらの内容を、整理・体系化して、現在では、下記の図のような指導者育成システムで指導者の育成を行っています。このシステムでは、指導する活動の規模、難易度に応じた次の四段階の資格を定め、段階に応じた指導者の役割と必要な技能の目標を決めており、それぞれの養成講座では、この目標が達成できるように講義と実技を組み合わせた詳細なカリ



指導者の種類と認定の流れ

《４段階の RAC 指導者の役割と目標》

○リーダー・ジュニアリーダー：（講座時間：24 時間）
◇インストラクターの下で指導ができる
・ 川の魅力を語り、正しい知識や情報を伝えることができ、人々が川に接する機会を提供する。
・ 川の構造特性を把握し、具体的な危険予見・回避能力を有する。

○インストラクターグループ：（講座時間：23.5 時間）
◇グループ及び現場の責任者として指導できる
・ 何かひとつ指導できる活動や分野を習得する
・ 河川行政について理解するとともに、災害時においては地域で活動協力することができる。

○コーディネーター：（講座時間：23.5 時間）
◇全体統括指導者として責任ある立場で管理できる
・ 事業の企画から実施、報告（評価）を行うことができる。

○トレーナー
◇指導者養成講座を開催できるリーダー
◇各種指導者養成講座の企画から実施、報告（評価）を行うことができる。

RAC指導者養成講座で行われる様々な講習

キュラムが組まれています。これらの資格を取得した指導者は、一定期間の活動経験を積むと上位の資格を受講できるようなシステムになっています。

この事業は、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律（環境教育等促進法）」の人材認定事業に登録されおり、事業開始から平成29年度までに、全国で484回の講座を開設し、リーダー等の認定を受けた指導者は、6,488人に上ります。

4. 水難事故《ゼロ》を目指せ！
～命を守る《川育ライフジャケット》を普及させよう～

RACでは、活動の目標のひとつに「水難事故防止・水難事故ゼロを目指す」ことを掲げています。水難事故から子どもや大人を守るためには、ライフジャケットの着用が最も効果的です。RACでは、当初からライフジャケットの有用性を訴え、ライフジャケットの着用の普及を推進していきましたが、「販売している場所がわからない」、「高価だ」などの理由で広まってこなかったのが現状です。加えて、これまで我が国には川遊び用のライフジャケットとして推奨できる安全基準や試験・認定制度が存在していませんでした。

そこで、平成27年5月、RACは関係機関と協力し、強度や浮力、フィッティング構造など川での体験活動に適したライフジャケットの性能基準を策定し、「RAC認定川育ライフジャケット」認定制度を構築しました。このことにより、今では、「RAC認定マーク」が付いた安全なライフジャケットが、ホームセンター等でリーズナブルな価格で販売されるようになり、ライフジャケットの普及が促進されています。

RACでは、今後もこの「RAC認定川育ライフジャケット」を普及させることにより、川の安全利用・水難事故防止の促進を図っていきたいと考えています。

また、ライフジャケットのほか、より安全な水辺の体験活動を普及するために、RACオリジナルグッズの製作・普及も行っています。軽量のスローロープ（15m）や川の活動に適した大人、子ども用のライフジャケットに加え、高浮力（11kg）でかつレスキュー活動に活用できる指導者用のライフジャケットも開発しました。現在は、これらの機材を販売するとともに、各地の活動で必要な機材の貸し出しも行っています。

さらに、指導者養成講座で使用する「指導者養成ハンドブック」や「水辺の指導者読本」などの指導書や、自然や環境にまつわる総合学習に携わる方に向けたテキスト「川の環境学習に取り組む人のために～小学校の総合的な学習の時間へのクロスカリキュラムの展

RAC認定川育ライフジャケットと認定マーク

RAC認定 川育スローロープ

映像教材DVD：ワル河童を探せ！

開」を企業の助成金を受けるなどして発行しました。テキストには、水辺の生態や水質の調査など、さまざまな分野が記載されています。川での体験活動と環境学習の関係や、体験活動の意義、安全対策についても網羅されています。

また、川に潜む危険や安全管理の初歩的知識を、子どもにも楽しくわかりやすく理解できるようにまとめた映像教材、「なまず大先生とおねえさんのワル河童を探せ！！」の製作を行い、実際に川に入れなくても、川の危険箇所や川での安全管理について効果的に伝えることができるようにしました。これらの教材や機材は、現在、全国で活動する川の指導者に幅広く活用されています。

5. 全ての子どもに体験させたい、学校教育で「川に学ぶ体験活動」を進める工夫

近年、学校教育では「気づき」や「体験」「人間性」を重視した新しい教育を進めています。この新しい教育とRACの活動方針とが一致するものであるため、川を活かした学習や洪水を想定した防災キャンプなど、全国の多くの学校で川の指導者と協働する事例が増えてきています。教育の内容に、「流れる水の働き」「土地のつくり」「身近な川の水質」など河川を対象とした学習を、実際に川へ足を運んで体験しながら学ばせようという取り組みです。しかし、このような事例は、決して多いとは言えません。私たちは、もっと多くの子どもたちに、できることならすべての子どもたちに「川に学ぶ」機会を提供したいと考えています。そのためには、義務教育である小中学校との連携が欠かせません。

このような思いから、さらに学校との連携を進めるため、学校の先生方を対象とした講座の開設や学校と地域活動をつなぐ学校連携コーディネーターの育成の活動にも力を入れています。

○学校の先生方のRACリーダー「学校リーダー講座」

RACでは、学校の先生方に川での活動を理解してもらうために、先生自らが「学校リーダー」として協働していただく仕組みを創りました。具体的には、「RACリーダー講座」から学校の先生向けに7単元分を厳選して、川の活動に関する基本的な知識や技術（川の自然環境や危険箇所、ライフジャケット体験、スローバック救助、流水での基本的泳法、監視等）を一日で習得する「学校リーダー講座」を実施しています。学校リーダー講座は、東北、関東、中国、九州で行われ、川での体験を伴う学習が展開されるようになっています。

《学校リーダー講座のカリキュラム》

① 川に学ぶ体験活動の理念	1単元（講義）
② 川という自然の理解	2単元（実技）
④ 安全対策について	1単元（講義
⑤ 川に学ぶ体験活動の基礎技術	1単元（講義） 2単元（実技）
合 計	**7単元**

○学校現場と地域活動を繋ぐ学校連携コーディネーターの育成（基礎・応用・専修課程）

学校の正規の授業で実施する体験活動では、子どもたちの大切な教育の時間を使うため、学校教育の目標を達成しなければなりません。そのためには、RACの指導者は、河川活動の意味と教育効果を理解した上で、体験活動が学校教育の目的や狙いにどのように関わっているのかを考えながら、教育目標を達成する手段として、川での活動を展開していくことが求められています。

これらの目標を達成するために、学校の教育課程、学校教育法、教育基本法、地方公務員法などの関連する法令などを理解するとともに、市民団体と学校とをつ

学校連携コーディネーター講座での講義

小学校のプールでのライフジャケット体験

なぐコーディネーターとしての役割などについて、専門的かつ実践的に学ぶ、学校連携コーディネーター講座を開設しています。

この、学校連携コーディネーター講座は、「基礎編（3.5時間+OJT　8時間）」「応用編（3時間+OJT　8時間）」「専修課程（4.5時間+OJT）」で構成されています。

6. 子どもの笑顔であふれる川に

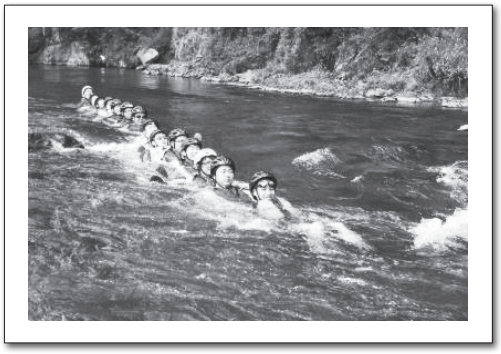
全国のRACの構成団体は、子どもたちが、地域の身近な川で実際に川での活動を体験する全国共通のプログラム、「子どもの水辺安全講座」や「一万人の川の流れ体験キャンペーン」を実施しています。

「子どもの水辺安全講座」では子どもを対象とした、川の楽しさを体験し、危険を事前に予知する能力を養い、この危険を避けるための方法を身に着けるためのプログラムを実施しています。この講座では、体験学習を通して危機管理の基礎知識“セルフレスキュー～安全は自分で確保するもの”を学び、そして川の楽しさを共有し、自分たちの身近な川のファンになることも目指しています。

子どもの水辺安全講座

「一万人の川の流れ体験キャンペーン」では、川遊びが多くなる夏休みに先駆け、各地で実施される体験活動のプログラムの中に、ライフジャケットを着て川を流れる「川の流れ体験」や川の危険個所や身の守り方、川での救助方法などを学ぶ「安全講習」、そして「クリーン作戦」という3つの共通した取り組みを加えて実施していただき、その年に実際に「川の流れ」を体験した参加者の人数を集計しており、現在5万人に達しています。

このキャンペーンを全国で展開することにより、水難事故防止のためのライフジャケットの着用と水難事故防止を広く呼び掛けています。また、RACのホームページでは、「全国川遊び100選」を公開しています。これは、RACの会員団体が推薦する、安全に楽しく遊べる



一万人川の流れ体験キャンペーンの様子

RACホームページの「全国川遊び100選」

川をご紹介しているものです。川遊びに興味をもった人が、近くで遊べる場所を検索するツールとして活用していただけるようになっています。

7. RAC指導者が取り組む「ネットワークづくり」と「スキルアップ」

○川に学ぶ体験活動全国大会

RACでは、川に学ぶ社会を全国各地域に広めることやRAC会員相互の情報交換と交流等を目的にした、「川に学ぶ体験活動全国大会」を開催しています。全国大会は、平成10年度に初めて国主導で開催されましたが、平成13年度からは各地のRACの構成団体を事務局に、全国の地域が持ち回りで開催地域の特色を活かしながら開催をしてきました。

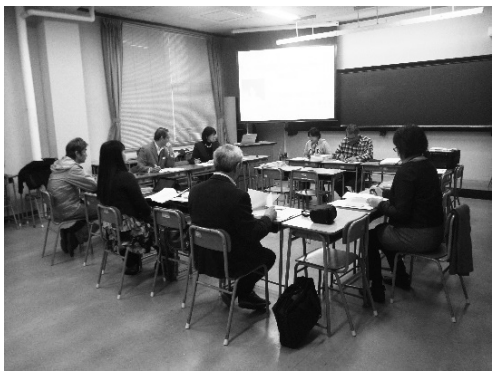
この大会には、全国のRAC指導者に加えて、開催地の市民団体や教育関係者、河川行政の関係者などが集い、川の指導者のネットワークづくりを大いに広める機会となっています。内容は、全国各地の団体による事例紹介、分科会での情報交換や意見交換、開催地域の川での体験プログラム等を取り入れた活動で構成されています。第1回は岡山市で開催、約350人の参加者が全

《川に学ぶ体験活動全国大会　第１回～第 17 回までの開催状況一覧》

開催年		開催地	河川・流域
平成13年	第１回大会	岡山県岡山市	旭川
平成14年	第２回大会	福岡県北九州市	紫川
平成15年	第３回大会	徳島県徳島市	吉野川
平成16年	第４回大会	福井県武生市	日野川
平成17年	第５回大会	福島県会津若松市	阿賀川
平成18年	第６回大会	岐阜県岐阜市	長良川
平成19年	第７回大会	東京会場	-----
平成20年	第８回大会	熊本県熊本市	緑川、白川、球磨川、菊地川
平成21年	第９回大会	広島県広島市	太田川
平成22年	第10回大会	鹿児島県薩摩川内市	川内川
平成23年	第11回大会	神奈川県横浜市	鶴見川流域
平成24年	第12回大会	岩手県盛岡市	北上川
平成25年	第13回大会	新潟県見附市	信濃川・刈谷田川
平成26年	第14回大会	宮崎県延岡市	五ヶ瀬川
平成27年	第15回大会	北海道ニセコ町	尻別川
平成28年	第16回大会	大坂府寝屋川市	琵琶湖・淀川流域圏
平成29年	第17回大会	福岡県北九州市	紫川流域
平成30年	第18回大会	茨城県取手市	小貝川　（予定）

子どもの水辺安全講座

第17回　川に学ぶ体験活動全国大会　開会式



RACフォーラムでの分科会の様子

国から集いました。それ以降、毎年開催を続けてきており、第17回を迎えた平成29年の大会は、北九州市で開催されました。今年は、茨城県の小貝川で10月13日(土)14日（日）に開催する予定です。ぜひお越しください。

○RACフォーラム（川の指導者研修会）によるスキルアップ

川の指導者には、特に子どもを楽しく安全に水辺へ誘うことを期待されていますが、指導者として活躍するためには、安全の確保のほか、指導技術や人間性、自然に関する知識、プログラムの展開方法など様々な要素が求められています。また、継続的にプログラムを展開していくためには、経営的な能力も必要です。

RACでは、平成14年から毎年1回、全国の指導者や水辺教育関係者を対象に、川の指導者研修会（通称：RACフォーラム）を開催し、講演会、各地の活動を報告し合う会に加えて、以下に述べる付加資格講座を実施しています。

○付加資格講座によるスキルアップ

RAC指導者が、実際に川で活動するときには、対象となる参加者がどのような方なのか、学校の児童なのか大人なのか、また、現場の環境、活動の目的や内容などにより様々な能力が求められます。そこで、RACでは、Eボート（10人乗りのゴムボート）を始めとする機材の取り扱い、いざというときのレスキューや救急救命、学校教育に関する専門的な知識等を習得する、専門講習会「付加資格講座」を体系的に設けて、指導者が常にスキルアップを図ることができる体制を作っています。この講座では、指導者が実際に現場で役立つ様々な知識や技術が習得できるようになっています。

現在は、以下のような《付加資格講座》を設けています。

①安全を中心に行う「水辺のリスクマネジメント講座」

Eボート指導者講座

水辺のファーストエイド講座

水辺のレスキュー講座

②溺れた人を救助する「水辺のレスキュー講座」
③Eボートを安全に操船する「Eボート指導者講座」
④傷病の対応策を学ぶ「水辺のファーストエイド講座」
⑤水辺の生物を学ぶ「水辺の生きもの講習会」
⑥学校連携コーディネーターの育成（基礎・応用・専修課程）

8. 川あそびで防災意識を

○「水辺のヒヤリはっと」活動の推進

平成18年5月に熊本県白川で水難事故が発生した時に、発生した事故の状況を調査し、事故の原因分析と今後の対応策を検討するため「事故対策委員会」を設置しました。平成19年1月19日には「事故調査報告書」として取りまとめました。その反省に基づいてRACでは、これを契機に緊急事態が発生した場合、この委員会が中心となって水難事故事例の調査・川の危険個所の調査研究に当ることにしています。

また、川の指導者養成講座等で研修を受けた方々にご協力いただき、「水辺のひやりはっと」を収集し、2,016件（H30.3現在）の事例と、そのうちの1,637件の事例を分類・整理・グラフ化し、代表的な水辺のひやりはっとを選び、その対策についてホームページで紹介しています。

○RAC川育補償制度の創設（保険制度）

体験活動を実施する上では、様々な手法によりリスクを限りなくゼロに近づけることはできますが、自然界には不確定因子が常に存在し、また、人は過ちを犯すことがあり、リスクを完全にゼロにすることは決してできません。そのため、川での体験活動を推進するためには、リスクを保険という形で補うことが必要不可欠です。

平成27年、RAC会員団体の指導者のための会員専用補償制度（RAC川育補償制度）を損害保険会社の協力で創設し万一の事態に備えています。この制度は、傷害保険と賠償責任保険がセットになっており、年間の予定をあらかじめ提出することで個別の活動の参加者数の特定は活動が終わった後に行い、その後清算されることになっていて、活動団体にとって便利な保険となっています。

9. RACがこれから目指すもの

川に学ぶ体験活動への取り組みが開始されて20年余りが経過しました。RACの加盟団体も設立当初の12団体から現在の101団体に増加しました。また、日本河川協会の調査によると川や水に関する活動を行っている団体は年々増え続け、検索できるデーターベースに登録されている団体は2,920団体に達しています。

RACとして出来ることはその一部ですが、取り組むべきことはまだまだ山積しています。現状では川に学ぶ体験活動は全国各地で行われているものの一部の熱心な人の情熱に支えられているところが大きく、その人

たちの後継者を常に養成していくことが求められており、それらの活動に参加する人たちが社会的にしっかりとした地位を確立していくことが求められます。

2017年12月の中央教育審議会答申では、学校を変化する社会の中に位置付け、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」を目指すべき理念として位置付けています。

昨今、学校教育の教科学習においても、川での体験を通じて学ぶことが珍しくなくなりました。川の指導者が学校教育の支援をより活発に行えるよう、相互に信頼し合う関係づくりを引き続き目指します。このような活動を継続的に行うことによって、成長したこどもたちが、OECD2015学習到達度調査で低調であった「科学に関連する活動」が活発になり、世界水フォーラムへの主体的な参加を目指すなどの学習者としての自己効力感を高めてもらえればと願っています。

RACは、河川行政にはたらきかけることはもとより、学校教育や社会教育など社会制度の一つとして定着してゆくよう、全国の仲間と共に今後とも努力してまいります。

そして、川で学び遊ぶときにはライフジャケットを着用することが社会常識となり、川の危険個所に関する正しい知識の普及と併せ、水難事故ゼロの日が来るまで、全国津々浦々に川の指導者がゆきわたるよう、指導者の養成、普及に努めてまいります。

終わりに

平成28年4月熊本地震が発生しました。熊本で活動するRACのメンバーの中にも被災者がいました。その時に、東京の事務局が基点となり、全国のRACのメンバーに、支援物資や支援金の提供を呼びかけるなど、全国のRACの指導者が協力して熊本で被災した方々への支援活動を行いました。すぐに全国の仲間から支援金と支援物資が集まり、中には、構成団体になっている自治体からの多量の段ボールベットやアウトドア関連企業からのテントの提供などもありました。しかし、現地は混乱している状況にあり、これらの物資をどのように届ければよいのか思案していたところ、被災地の周辺で活動するRACのメンバーから、宮崎県と熊本県

熊本地震による被災地でのRAC救援活動

支援金のお願い

弊協議会では、発災直後より九州地域の指導者、また、自らが被災者の熊本在住の当協議会の川の指導者ネットワークの力で、必要な支援物資の調達や搬送中継を行い、顔の見えるつながりでの支援活動を展開しています。

初動の救援活動は全国各地の川仲間の皆様の支援を得て、迅速な救援活動を行いました。

今後は、避難所生活から復興まで長い時間のかかることが予測されています。子どものケアを含めて、現地での救援活動には少なからぬ費用を必要としています。

みなさまの暖かいお気持ちを私たちと共に被災地の方々へお届けさせて頂ければ幸いです。

4/19　グリーンヒル御船（高齢福祉施設200名）への物資（水7000l等-サンダーバード提供）の搬送

4/21　御船町小中学校避難所へ（避難者200名）への物資（米130kg-福井の方々）の提供

4/22　嘉島東小学校へ（避難者200名）への物資（テント40張-スノーピーク提供等）の搬送

facebook「RAC救援隊支援ネット」にて関係者の活動の共有中！

RAC救援隊支援先口座

金融機関名　ゆうちょ銀行
支店名　〇一九支店（当座預金）
口座番号　0554131
（払込取扱票記号番号　00120-2-554131）
口座名義　特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会

NPO法人川に学ぶ体験活動協議会

〒114-0014　東京都北区田端1-11-1船五郎ビル104
電話 03（5832）9841
FAX 03（6893）2642
電子メール rac@rac.gr.jp　http://www.rac.gr.jp

の間に位置するキャンプ場を支援物資の配送の中継地として物資を集め、現地のメンバーが直接車で熊本へ届けるという対応策が提案され、即刻始動しました。また、北九州で活動するメンバーは、独自にトラックを調達して、集まった物資を届ける手段を確保して下さり、提供された物資や必要とされている物資を現地で調達して届けるなどの活動を行ってくださいました。

20年近い活動により出来上がった全国の川の指導者のネットワークが、災害時に瞬時に協力して始動した出来事でした。

川での体験活動を通じて次世代を担う子どもたちが力強く育つお手伝いをしていたつもりが、私たち指導者自身が、様々な緊急時の状況に対応することができる、本物の「セルフレスキュー」の力をつけさせていただいていたのかもしれません。今後も、全国に広がった川の指導者の仲間と共に、「川に学ぶ社会」の実現に向けて一層努力してまいります。

今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人川に学ぶ体験活動協議会